

読売新聞 きょう（7月17日）のイチ押し

1面 がん拠点病院8割 手術減

全国のがん診療の拠点病院の8割で、新型コロナウイルスの感染が拡大した2020年のがん手術件数が前年より減っていました。減少幅が10%を超える病院も2割ありました。本紙の独自調査です。

- ★ 専門的ながん医療を提供する病院として国が指定する「がん診療連携拠点病院」など計447施設に本紙がアンケートを実施し、219施設から回答を得ました。
- ★ 手術件数が300件近く減った病院もあり、理由については「新型コロナ患者を受け入れたことによる病棟閉鎖や一般病床の減少が影響したと考えられる」と答えました。
- ★ 調査の詳細は21日朝刊の特集ページ「病院の実力」に掲載します。

1面・7面 「三の丸収蔵品」初の国宝

文化審議会は、宮内庁の「三の丸尚蔵館」が収蔵する美術工芸品5件を国宝とするように文部科学相に答申しました。皇室ゆかりの同館収蔵品の国宝指定は初めてとなります。

- ★ 国宝の答申があったのは、安土桃山時代を代表する狩野永徳の屏風「唐獅子図（からじしず）」、元寇（げんこう）の様子を描く絵巻物「蒙古襲来絵詞（もうこしゅうらいえことば）」、江戸時代の絵師・伊藤若冲（じゃくちゅう）の代表作「動植綵絵（どうしょくさいえ）」など。
- ★ 三の丸尚蔵館の収蔵品は宮内庁が確実に保護していることなどから、文化財保護法に基づく国宝や重要文化財の指定はされてきませんでした。指定によって展示や研究などの活用が広く進むと期待されます。

他紙と比べて

76回目となる広島・長崎の原爆忌が近づいてきました。新型コロナウイルスは、人々が被爆地を訪れる機会だけでなく、被爆者が体験を語り継ぐ機会も奪っています。社会面でスタートした連載企画「被爆76年 コロナ禍の中で」は、困難な状況下で核兵器廃絶への思いを懸命に伝えようとする人たちの姿を伝えます。計3回の予定です。